

■ 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「彼は石のようなやつだ」という表現があります。(1) この「彼」はいったいどのような人でしょうか。「彼はとても頑固な人間だ」と解釈する人がいたとして、それは納得がいききます。(2) 「彼はとても柔軟な人間だ」という解釈は成り立たない気がします。なぜでしょうか。この「くのようだ」というのは比喩の表現ですね。実は比喩には「たとえるもの」と「たとえられるもの」の間に共通性が必要なのです。この例文において「たとえるものである石」と「たとえられるものである彼」の共通性は何でしょうか。それは「固い」という性質です。彼は頭が固いのでしょうか。その性質は石の持つ固さと共通します。だからここに比喩が成立というわけです。ところが石から柔らかいという性質を読みとることは困難です。(3) 「彼は石のようなやつだ」という表現は「彼はとても柔軟な人間だ」という解釈に結びつかないのです。ところで、この共通性ということ は比喩に限らず重要なものです。たとえば、あなたがある困難な事態に直面したとします。あなたはどうかしらいいか頭を悩ませますが、ふと気づきます。「ああ、これはかつてのあの経験と共通するものがあるぞ。ならばあの時と同じような方法で解決できるはずだ」と。(4) あなたがそれによつて困難な事態を切り抜けることができたとしたら、それは共通性の発見が大いに役に立ったということになります。(5) 、ノーベル賞を受賞したことでは知られる湯川秀樹は「創造の基本はだれも気がつかなかった類似性の発見だ」との旨を述べています。共通性は創造においても重要なようです。

ア でも イ ちなみに ウ だから エ そして オ では



2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次のカ～クから選び、記号で書き入れ
 ましよう。(同じ記号は一度しか使えません)

伝統的な和歌の技法の一つに「見立て」があります。

(6)

「ちはやぶる神代もき

かず竜田川からくれないに水くくるとは」という在原業平の有名な歌に「見立て」の技

法が用いられています。この歌の意味を簡単に言うと「紅葉がたくさん流れている竜田

川は(7)

紅い模様を染めた布のように見える」ということになります。すなわち「紅

葉の流れる川」を「布」にたとえたわけです。このように自然物を人工物にたとえるのが「見
 立て」の一つのやり方です。(8)

(8)

「駒なめていざ見にゆかむふるさとは雪とのみこ

そ花はちるらめ」という歌にも「見立て」の技法が用いられています。この歌の意味を簡
 単に言うと「馬を並べて見にいこう、古い都では雪のように花が散っているだろう」とい
 う意味です。こちらは花を雪にたとえたわけです。このようにある自然物を別の自然物に
 たとえるのが「見立て」のもう一つのやり方です。(9)

(9)

「見立て」は、ある自然物

を別の自然物もしくは人工物にたとえる技法なのです。(10)

(10)

それによって目の前の

風景の向こうに別世界が展開されるというある意味で幻想的な技法でもあるのです。

カ 要するに

キ しかも

ク あたかも

ケ たとえば

コ また